

せせらぎ再生水路の利用状況と住民の意識

—世田谷区内の再生事例を対象として—

国土館大学理工学部 正会員 北川 善廣
 国土館大学工学部 学生会員 ○森 亮介
 世田谷区土木事業担当部 正会員 山口 浩三

1. はじめに

世田谷区内の目黒川水系と呑川水系は1970年代後半において下水道暗渠化され、上部は緑道になっている。ここ10年の間に、世田谷区は目黒川水系と呑川水系の緑道にそれぞれせせらぎ水路を再生し、地元住民に開放している。本報では、この二つのせせらぎ再生水路を対象として、利用者である地域住民に対してアンケート調査を行い、再生後の利用状況や地域住民の意識調査を行った結果について述べる。

2. 対象水路の概要

対象とした再生水路は、図1に示すような独立河川の目黒川水系北沢川ふれあいの水辺と呑川水系呑川親水公園である。なお、この二つの水系は現時点では合流式下水道処理地域の下水道幹線であるが、元々は自然河川であり、河川法適用の河川として扱われている。図1に示すように、目黒川水系北沢川緑道では環状7号線道路から烏山川緑道合流地点までの1,815m区間、烏山川緑道では北沢川緑道との合流地点までの120m区間、2つの緑道の合流地点から下流の目黒川緑道500m区間は、世田谷区“ふれあいの水辺整備事業”として平成7年度工事着手され、途中からからせせらぎ水路として供用されている¹⁾。現在工事中の環状7号線付近140m区間が平成19

年度末に竣工すれば、総延長2,435mのせせらぎ水路が完成することになる。この水路の水は、東京都下水道局落合水再生センターから送水された処理水をふれあいの水辺沿いの世田谷区浄化施設でさらに高度処理し、計画流量20ℓ/sの水を流している。

呑川水系の本川上流870m区間の呑川親水公園²⁾は地元住民の要望により平成元年度に工事着手され、平成5年4月に完成した。この公園の水源は、主として湧水と地元幼稚園の池からの水であり、容量120m³の貯水槽に貯留し、計画流量25ℓ/sの水を循環させている。

3. アンケート調査概要

アンケート調査は図2に示した各区間の歩行者を対象として、北沢川ふれあいの水辺では平成19年7月22日、28日、31日、11月3日～5日に、呑川親水公園では平成19年8月4日、5日、7日、11月13日、15日、19日に各々実施した。

3.1 回答者の属性

回答者数は北沢川ふれあいの水辺182(男性72、女性110)、呑川135(男性56、女性79)である。全体に占める区間別サンプル数の割合は、北沢川ふれあいの水辺では最も多いD区間(全体の37%)と最も少なかったE区間(全体の8.2%)を除けばほか

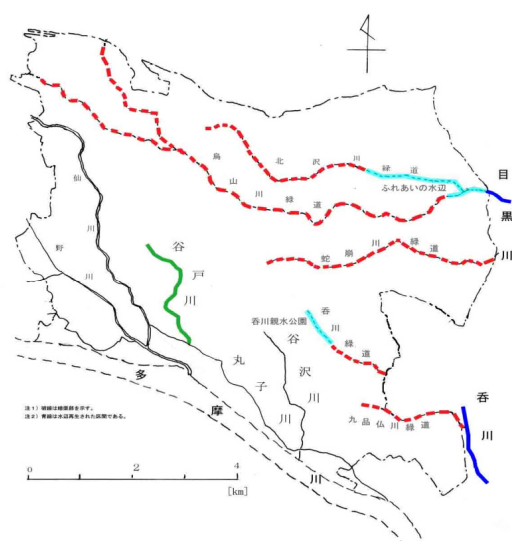


図1 対象水路の位置(青色)

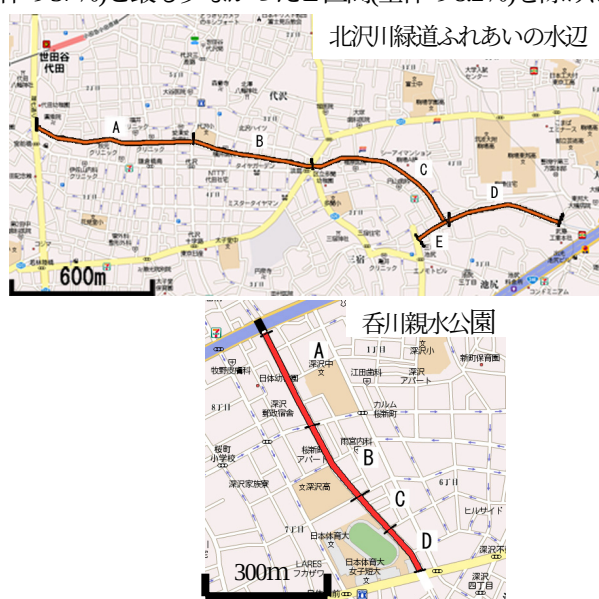


図2 調査対象区間

キーワード：せせらぎの再生、河川空間整備、マネジメント、PDCA

連絡先：〒154-8515 東京都世田谷区世田谷4-28-1 国土館大学理工学部都市ランドスケープ学系都市河川研究室

の区間は概ね17%であり、呑川親水公園では22%～29%であった。年代別では、若年齢層(30代以下)は北沢川ふれあい水辺42%、呑川親水公園50%、中年年齢層(40・50代)は北沢川ふれあい水辺31%、呑川親水公園24%、高年齢層(60代以上)は北沢川ふれあい水辺27%、呑川親水公園26%であり、二つの水路の各区間では各々の年齢層からの回答が得られた。

自宅から水路までの所要時間は、北沢川ふれあい水辺では69%、呑川親水公園では72%の回答者が徒歩10分未満の徒歩圏内である。居住年数は、北沢川ふれあい水辺では10年以上45%、10年未満35%、無居住20%であり、呑川親水公園では10年以上39%、10年未満44%、無居住17%であり、年齢層が高くなるにつれて居住年数が長い。

3.2 利用状況

二つの水路では全体の46%の利用者が「ほぼ毎日」の頻度で「散歩」(北沢川ふれあい水辺52%、呑川親水公園39%)に利用しており、中・高年齢層が多い。2番目は「通勤・通学」(北沢川ふれあい水辺17%、呑川親水公園34%)であり、最寄り駅や学校に近い区間で高い割合になっている。

3.3 住民の意識

①「この水路の水源が何か」との問いに対して「知っている」と回答した割合は、北沢川ふれあい水辺で57%、呑川親水公園で12%である。水源に関する案内看板を設置している北沢川ふれあい水辺では年齢層や区間に関係なく知っている割合が高く、呑川親水公園では10代・20代の若年齢層が知らないと答えている。

②「水路の中で魚や鳥を見たことがあるか」との問いに対して、二つの水路でほとんどが「見た」と答えており、そのほとんどは鴨やコサギ、小魚やザリガニを見たと答えている。

③「緑道や水路の清掃活動に参加したことがありますか」との質問に対して、ほとんどの利用者は参加したことがないと答えている。

④「水辺で子供たちが安心して遊べるように、また水辺空間が地域のシンボルとして愛着を持てるようにするためには、どうしたらよいと思いますか」との質問に対して、二つの水路では「子供をはじめ多くの人々が参加して清掃活動を行い、みんなできれいに使う」、「祭りなどのイベントを通じて、行政と一緒に広報活動し、きれいに使う」が上位を占めている。

3.4 水路の印象

水量・水質や視覚的な印象評価の結果を図3に示す。これらの図によると、北沢川ふれあい水辺は見た目、周辺との調和、水のきれいさに関する評価は良いが、呑川については下流部で水量が少なく視覚的な印象が劣ると感じている。

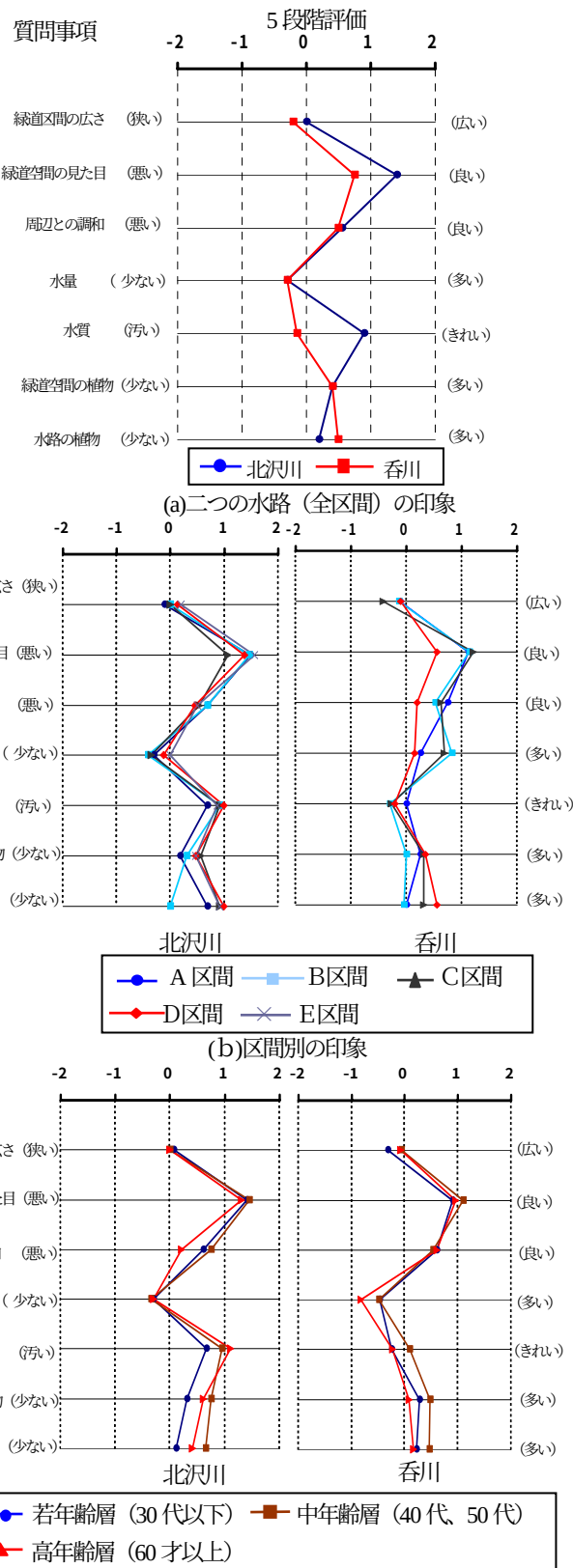


図3 印象評価の結果

参考文献

- 1) 世田谷区北沢総合支所土木課：水がよみがえる“ふれあいの水辺”北沢川緑道自然を大切にしよう、パンフレット
- 2) 世田谷区玉川総合支所土木課：呑川親水公園、パンフレット
- 3) 北川・山口・黒田・谷亀：世田谷の水辺再生に関する調査研究、土木学会第62回年次学術講演会講演概要集2-151、平成19年9月